

2024年05月21日(火)【外為Lab】松田哲
タイトル:【「通貨の保存機能」とインフレの問題】

通貨には、様々な機能があります。

例えば、通貨を相手に渡すことで、ものを買ったことになります。

その買ったものは、対価を支払った(=通貨を渡した)人のものになります。

つまり、所有権の移転が起こります。

こういった通貨の働き(効果・機能)を、「決済機能」とか「交換機能」と言います。

この決済・交換機能は、わかりやすいでしょう。

普段の生活で、キャッシュ(現金)での買い物を想像すれば良いのですから。

+++++

通貨には、他にもいくつもの重要な役割があります。

その一つが、価値を保存する機能です。

つまり、蓄えて、取っておく働きです。

たとえば、100万円の通貨があったとします。

銀行や郵便局に預けておけば、その100万円は、1年後でも2年後でも、100万円として戻ってきます。

日本が超低金利政策を採って長い期間が経っていますから、「預けておけば利子が付きます」とは、言い難いのですが、通常は、元本保証の金融商品に預けた場合は、その元本の価値を保存して、利息を受け取ることができます。

こういった、通貨(お金)の働きを、「保存機能」とか「ストック機能」と呼びます。

+++++

ただし、「インフレ状態」のときは、預けていた通貨(お金)の価値は、インフレ率以上の

金利が付かなければ、元利を合計しても、実質的価値は目減り（減少）していることとなります。

しかし、それでも、表面上（額面上）は預けていた金額の 100 万円は、100 万円として戻ってきます。

こういった実質的価値の変化は、インフレの問題（テーマ）であって、「通貨の保存機能」の問題ではありません。

しかしながら、こういった事柄は、切っても切り離せない部分がありますから、一緒に考えるべき、とも言えます。

気を付けるべき点は、インフレの問題と「通貨の保存機能」を混同してはいけない、ということ。

+++++

現在、概して言えば、世界中でインフレが拡大しています。

米国や、欧州、日本のインフレ率を見れば、一目瞭然と考えます。

インフレは、すなわち、通貨価値の減少と言っても良い、と考えます。

世界中の通貨価値が、インフレによって目減りしているならば、インフレに対抗できる資産に目を向ける必要があります。

インフレに対抗できる資産の代表は、不動産や金（ゴールド）といった実物資産や株式などの有価証券でしょう。

このところの不動産価格の上昇や、金価格の上昇、そして、株価の上昇を見れば、その動きは極めてリーズナブルと言える、と考えます。

+++++

+++++

（2024 年 05 月 21 日東京時間 15 : 00 記述）